

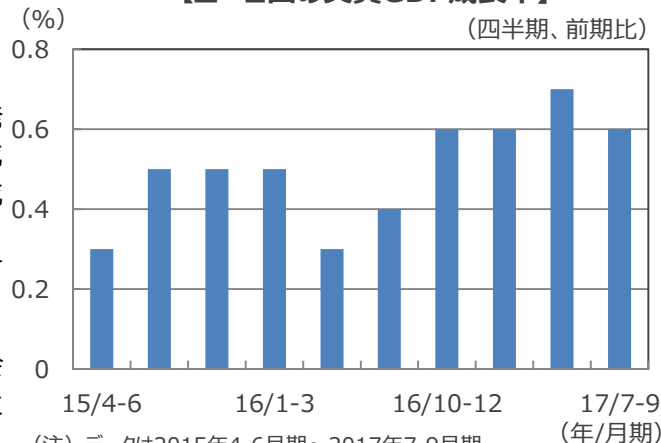
今日のトピック ユーロ圏経済と通貨の動向 (2017年11月)

景気は堅調さが続き、ユーロは底堅い展開が見込まれる

ポイント1 ユーロ圏景気は堅調 景況感も改善が続く

- ユーロ圏景気は引き続き堅調です。10月31日に発表された2017年7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率（速報値）は前期比+0.6%となりました。成長率は市場予想（ブルームバーグ集計、以下同）の同+0.5%を上回りました。また、4-6月期について同+0.6%から同+0.7%へと上方修正されました。
- 景気の先行きを見るうえで参考となる、欧州委員会による10月のユーロ圏総合景況感指数は、114.0と市場予想の113.3を上回りました。同指数は、2012年10月を底として上昇基調にあります。

【ユーロ圏の実質GDP成長率】

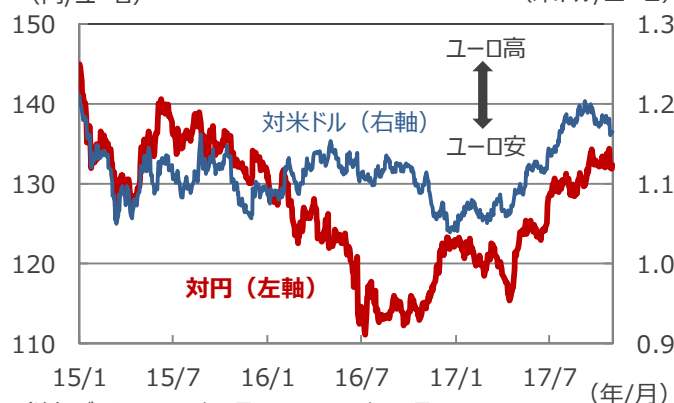


(注) データは2015年4-6月期～2017年7-9月期。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 量的緩和縮小を発表 規模を半減し、期間を9カ月延長

- 10月26日、欧州中央銀行（ECB）は量的緩和策の資産購入額を来年1月から半減させ、9カ月間延長することを決定しました。
- ユーロ圏の10月の消費者物価指数は前年比+1.4%と、ECBの目標とする+2%近傍を下回っています。ECBは、必要があれば量的緩和の延長や資産購入規模の拡大があると、引き続き緩和的な姿勢を示しています。

【ユーロ（対円・対米ドル）】



(注) データは2015年1月1日～2017年10月31日。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 内需の堅調さなどからユーロ圏景気、通貨ユーロは底堅い見込み

- 金融政策変更の発表後にはユーロ安となりました。これは、資産購入の期間延長について6カ月との市場の見方もあり、緩和的な環境が続くとの見方が強まったことなどが背景です。しかしユーロ圏景気は、世界経済の回復から輸出が伸び、低金利などを背景に内需もしっかりしていることなどから、10-12月期以降も堅調な推移となりそうです。また、これらを背景にユーロは底堅い展開となることが見込まれます。

ここも
チェック! 2017年10月27日 ECBの金融政策 (2017年10月)
2017年 9月26日 『ドイツ総選挙』、メルケル首相が4選へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。